

枚方淀川探鳥会 2025年11月

25年10月探鳥会は雨天中止としました。10月探鳥会用に作成した資料をリメイクしています。

I 今月の鳥はイソシギ

①イソシギ チドリ目シギ科イソシギ属

L 20cm 漢字名 磯鳴

学名 *Actitis hypoleucos* 英名 Common Sandpiper

9月(先々月)探鳥会でイソシギが出ました。枚方淀川探鳥会の観察チェックリストを見ていただくとわかるように、平が担当して13年間で、ほぼ毎回観察できる**スズメが125回**観察しているのに対し、**イソシギは89回**と、ほぼ2/3の探鳥会で観察している常連の鳥である。

磯鳴は白いアイリングと、胸の白色部が翼の付け根あたりで白く食い込んでいることが特徴の鳥である。

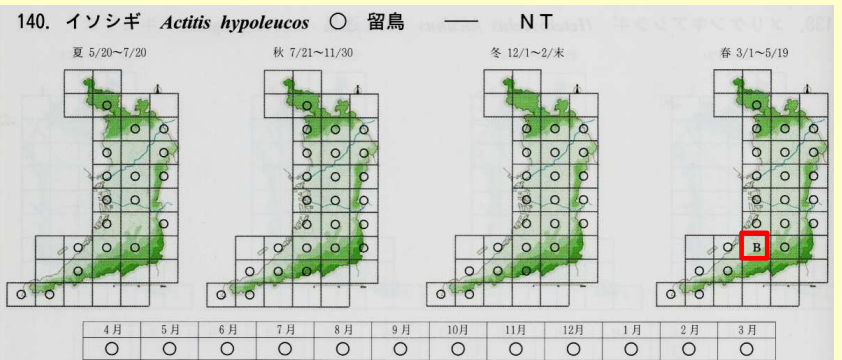


イソシギ 20221002(幅良三氏)

②大阪府のイソシギ →

(大阪府鳥類目録 2016)

大阪府の山地を除く区画に生息しているが、繁殖個所はほとんどないことがわかる。枚方淀川探鳥会でも、上記の通りほぼ一年中観察できるものの、繁殖していないと思われる。右図の春に**Bランクが1か所**あるが、2005年岸和田市において交尾活動が確認されたものである。この20年間で大阪府内ではそれ以外の繁殖行動は見られていない。



イソシギ 分類:チドリ目シギ科 Common Sandpiper *Actitis hypoleucos*

全長:17.8-21.0cm 翼長:100-118mm 尾長:22-25mm 体重:45-94g

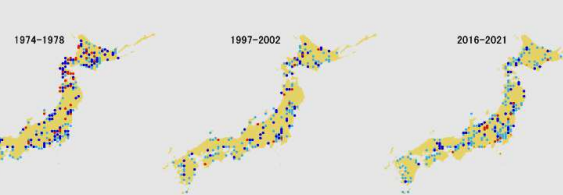
環境省レッドリスト: —

各年代の分布状況の変化

メッシュ数	A	B	C
1974-1978	38	95	113
1997-2002	13	56	115
2016-2021	13	51	164

調査地数

1997-2002	117
2016-2021	75



← ③日本のイソシギ繁殖地分布

(鳥類分布調査会 2021年)

全国で留鳥として繁殖する。東北以北のものは南へ移動して越冬する。1970年代から1990年代にかけ記録メッシュ数が減少し、2010年代にかけてはやや増加しているが、1990年代と2010年代でほぼ同じコースを調査できた現地調査の記録を見ると、**117地点 から75地点へと減少**しており、減少が続いている可能性がある。

④世界のイソシギ分布図

真木・大西(日本の野鳥590)

2000年平凡社

日本では留鳥として全国に広く分布するが、中部地方以北では夏鳥である。世界で見ると、ユーラシア大陸中部に繁殖地が広がっている。越冬地はアジア・オーストラリア～アフリカに広がっている。



⑤11月に観察したい鳥



ジョウビタキ(20221106)幅良三氏

冷え込みが厳しくなっており、**ジョウビタキ**を期待したいと思っている。

Ⅱ 探鳥会観察チェックリスト(第8版)

観察回数は、平が担当した2012年1月～先月2024年12月までの13年間の観察回数です。
100回以上は留鳥、50回前後は冬鳥or夏鳥、10回以下は珍鳥？

第8版	科名	鳥名	観察回数	2024				2025				第8版
				9	10	11	12	9	10	11	12	
				1	6	3	1	7	5	2	7	
12	カモ	マガン	1									12
18		ツクシガモ	3					雨				18
23		トモエガモ	2				3	天				23
24		シマアジ	1					半				24
26		ハシビロガモ	9					止				26
27		オカヨシガモ	52				29					27
28		ヨシガモ	21				6					28
29		ヒドリガモ	48			3	14					29
30		アメリカヒドリ	6									30
32		カルガモ	97	○	1	39						32
33		マガモ	58			15						33
34		オナガガモ	8									34
35		コガモ	62			4	1					35
39		ホシハジロ	46			3	49					39
40		アカハジロ	6				1					40
41		メジロガモ	1				1					41
43		キンクロハジロ	47				106					43
44		スズガモ	7				5					44
56		ミコアイサ	2				1					56
58		カワアイサ	50			3	6					58
59		ウミアイサ	3									59
64	キジ	キジ	54		1		1	1				64
69	アマツバメ	アマツバメ	2									69
80	カウコウ	ホトトギス	2									80
82		ツツドリ	2									82
83		カウコウ	1									83
89	ハト	キジバト	129	○	4	2	1	4				89
96	クイナ	クイナ	12									96
100		バン	23									100
101		オオバン	55			4	92					101
103		ヒクイナ	7									103
117	カイツブリ	カイツブリ	51			5	5					117
119		カンムリカイツブリ	64			3	23					119
121		ハジロカイツブリ	4									121
127	チドリ	タゲリ	1									127
128		ケリ	27									128
134		イカルチドリ	9									134
135		コチドリ	32									135
136		シロチドリ	4									136
144	シギ	チュウシャクシギ	2									144
163		トウネン	1					雨				163
165		ハマシギ	1					天				165
183		タシギ	5					中				183
188		イソシギ	89	○	3	1	2	2	止			188
190		クサシギ	3									190
192		キアシシギ	2									192
198		アオアシシギ	1									198
213	カモメ	ユリカモメ	22									213
221		ウミネコ	3									221
222		カモメ	3									222
226		セグロカモメ	20									226
233		コアシサシ	9									233
270	アビ	シロエリオオハム	1									270
315	ウ	カワウ	122	○	47	12	7	57				315
319	トキ	ヘラサギ	1									319
320		クロツラヘラサギ	1									320
328	サギ	ゴイサギ	10									328
330		ササゴイ	18									330
332		アマサギ	3									332
333		アオサギ	124	○	4	8	1	4				333
335		ダイサギ	120	○	5	5	3	3				335
337		コサギ	111	○	6	5	3	8				337
343	ミサゴ	ミサゴ	75		1	1	4					343
344	タカ	ハチクマ	2									344
353		ハイタカ	36				2					353
354		オオタカ	27									354
355		チュウヒ	2									355
356		ハイロチュウヒ	1									356
359		トビ	102	○	3	2	4	1				359
363		サシバ	1									363
366		ノスリ	37			1						366
371	フクロウ	オオコノハズク	1									371
384	カワセミ	カワセミ	106	○	1	3	1	2				384
389	キツツキ	アリスイ	10				1					389
390		コゲラ	102		2	1	2	1				390
394		アカゲラ	6									394
402	ハヤブサ	チョウゲンボウ	57				1					402
407		ハヤブサ	31									407

Ⅲ 先々月(9/7)探鳥会報告

今月も関西西大の工事の関係で短縮コースとなった。天野川ではコサギ・ダイサギ・カワセミ、そしてイソシギなどが観察できた。

2年前に伐採されてできた河川敷の草原で、草原の鳥を期待していたが、モズ1羽、ホオジロ1羽にとどまった。河川敷はクズ・アレチウリなどのなどのつる植物、オオバタクサなど2~3mもの草丈の高い野草に覆われ、草原の鳥キジが生活できない状況にあるが、唯一伐採せずに残されているオオタカの森から、キジの雄たけびを久しぶりに聞いた。

淀川本流にカモが1羽もいなかったこと、秋の渡り鳥が観察できなかったこともあり、トータル観察種は24種にとどまった。

第8版	科名	鳥名	観察回数	2024				2025				第8版
				9	10	11	12	9	10	11	12	
				1	6	3	2	7	5	2	7	
411	サンショウクイ	サンショウクイ	1									411
419	カササギヒタキ	サンコウチョウ	1					雨				419
425	モズ	モズ	114	○	13	20	6	1	天			425
435	カラス	ハシボソガラス	129	○	19	8	35	6	中			435
436		ハシブトガラス	118	○	3	3		3	止			436
440	シジュウカラ	ヒガラ	1									440
442		ヤマガラ	7									442
447		シジュウカラ	116	○	25	2		3				447
448	ツリスガラ	ツリスガラ	1									448
450	ヒバリ	ヒバリ	68	○	1		1					450
456	ヒヨドリ	ヒヨドリ	126	○	499	254	288	2				456
458	ツバメ	ショウドウツバメ	6									458
461		ツバメ	64	○	2			5				461
462		イワツバメ	54	○			30					462
463		コシアカツバメ	23	○	8			2				463
464	ウグイス	ウグイス	119		2	6	5					464
467	エナガ	エナガ	93		12	10						467
476	ムシクイ	センダイムシクイ	7									476
479		エゾクシクイ	1									479
481		メボソムシクイ	5									481
482		オオムシクイ	5									482
484	ヨシキリ	オオヨシキリ	33									484
485		コヨシキリ										485
497	セッカ	セッカ	32									497
501	メジロ	メジロ	103	○	24	22	8	4				501
502	キクイタダキ	キクイタダキ	8									502
507	ムクドリ	ムクドリ	113	○	33	35	21	28				507
509		コムクドリ	5									509
512		ホシムクドリ	2									512
525	ツグミ	マミチャジナイ	1									525
526		シロハラ	54				1					526
527		アカハラ	2									527
531		ツグミ	60				1					531
532		ハチジョウツグミ										532
533	ヒタキ	エゾビタキ	9		12							533
534		サメビタキ	2		2							534
537		コサメビタキ	18		6							537
539		オオルリ	4									539
543		ノゴマ	1									543
550	ヒタキ(総)	キビタキ	16									550
554		オジロビタキ	1					雨				554
556		ルリビタキ	1					天				556
561		ジョウビタキ	60			9	5	中				561
564		イソヒヨドリ	39	○	1	3	1	2	止			564
568		ノビタキ	13									568
575	スズメ	スズメ	125	○	30	23	120	30				575
584	セキレイ	キセキレイ	42		3	2	1					584
585		ハクセキレイ	116	○	4	21	40					585
586		セグロセキレイ	109		2	8	3	3				586
595		タヒバリ	35			34	9					595
597	アトリ	アトリ	29									597
598		シメ	42									598
600		イカル	17									600
606		ベニマシコ	44									606
608		カワラヒワ	114		8	89	6	2				608
613		マヒワ	6									613
618	ホオジロ	ホオジロ	119	○	3	3	6	1				618
622		ホオアカ	6									622
625		カシラダカ	23									625
626		ミヤマホオジロ	1									626
633		アオジ	70				5					633
637		オオジュリン	17									637
9	キジ	コジュケイ	13									9
11	ハト	カワラバト(ドバト)	121	○	3	14	5					11
30	ムクドリ	ハッカチョウ	1									30
		カッコウSP	5									
		アイガモ	3									
		メボソムシクイSP	7		1							
		ヒタキSP	3									
種数合計(自動計算)				25	36	39	50	24				
個体数合計(自動計算)					697	688	999	175				
探鳥会参加者数				9	30	30	28	12				
13年間観察回数		1～2回		2012年1月～2024年12月の13年間 ①観察回数の少ない種(1～2回) ②観察回数多い種(100回以上) ③樹林伐採の影響を受けると考えられる種								
樹林伐採影響でなくなる種		100回以上										

IV 次回は12月7日(日)

午前9時 ラポールひらかた前

今月と同じように、大阪支部HPからホームズ様式からお申し込みくださるようお願いします。

カンムリカイツブリ・ヒドリガモなどの冬鳥が楽しみです



カンムリカイツブリ(20221106)幅良三氏

V 野鳥通りの変化（2023年11月樹木伐採経過）

今回写真で示した場所は、冬はツグミ・シロハラだけでなくアトリ・マヒワも、春・秋はオオルリ・キビタキ・コサメビタキ・ムシクイなどの渡り鳥が観察できた上、2023年にはオオタカも繁殖した里山レベルの探鳥地で「野鳥通り」と略称されるほど、山野の鳥が観察できる樹林でした。このように木々が大きくなり樹林となったのは、これまで予算が出なかったことで、30年間放置されていたことによるものでした。昨今の気象状況の変化で洪水が予想されること（実際に平が担当して15年間に、2回の冠水を経験している）、洪水した場合、河川敷の木が倒れて下流の橋桁を損傷することもあり、今回予算が出たことで、オオタカ繁殖個所を残し全伐されたものです。

